

平成29年度事業報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業 P. 1～P. 5
- 2 公益活動推進事業 P. 5～P. 7
- 3 臨床仏教研究所運営事業 P. 7～P. 11
- 4 出版事業 P. 11～P. 12

II 表彰事業（公益目的事業2） P. 12～P. 13

III 災害支援事業（公益目的事業3） P. 13～P. 14

IV 管理 P. 14

事業報告書付属明細書 P. 15

平成29年度事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

平成29年12月8日前後の日曜日を中心に全国約50会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約6,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

①平成29年度指導者研修会「SNS時代のこころへの寄り添い方」

※日時＝平成30年3月29日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝神 仁（当会主幹）

※目的＝現代のネット社会では、ソーシャルネットワーク（SNS）は人と人とが繋がりが合うために欠かせないコミュニケーションツールとなっている。またSNSを通じて青少年が犯罪の被害者となることもしばしばである。このような社会環境の中で仏教者がSNSを活用して子どもや若者へのこころへ寄り添う方途について講義とワークショップを通じて学んだ。

(3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO、公益法人等との活動連携

1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況について聞き取り調査をした。

2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

4) 子ども支援系NPO・公益法人・学会等との情報交換及び活動の連携

チャイルドライン支援センター、オレンジリボン、全国フリースクール協議会、いのちの電話、電話相談学会、全国社会福祉協議会、日本精神衛生学会、日本仏教教育学会など、青少年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、公益法人、学会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

②文部科学省、厚生労働省、他行政機関との子ども・若者の支援のあり方についての協議・連携

1) 文部科学省いじめ防止対策推進室との協議・連携

昨今深刻化している青少年のSNSを通じたいじめの深刻化に関して、文部科学省いじめ防止対策推進室と情報交換を行い、子どもたちの現状を訴えるとともに、いじめ防止及び緊急対応に関する施策の推進を依頼した。

2) 厚生労働省自殺対策推進室との協議・連携

子どもや若者をはじめとする若年層の自殺者数が高止まりを続ける中、自死予防活動等に関する協議を厚生労働省自殺対策推進室と行い、今後の施策についての協議と民間活動の支援について依頼を行った。

3) 都道府県市町村教育委員会との協議・連携

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、香川県教育委員会等と被災下における子どもの心のケアのあり方や過疎地域での支援のあり方について協議を行った。

③府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

1) 活動協賛

・第12回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝平成29年12月～30年2月

※応募総数＝約500点

※選考委員＝久保田 聖淳氏他

※入賞＝最優秀賞他13点

※主催＝大阪青少年教化協議会

※後援＝大阪市仏教会／全国青少年教化協議会 他

・第2回「こころの絵本大賞」の後援

公益財団法人 仏教伝道協会が主催する「こころの絵本大賞」を後援した。

※テーマ＝家族 友だち 勇気 命 思いやり 愛情

※主催＝公益財団法人 仏教伝道協会

※協賛＝鈴木出版株式会社

※後援＝毎日新聞社／日本仏教保育協会／全国青少年教化協議会

・第34回「ぱれっと福祉バザー」の協賛

渋谷区恵比寿で、知的に障がいのある人たち（知的障がい者）を対象に、余暇活動支援（たまり場）や就労支援（クッキー製造販売・軽作業等）、生活支援（グループホーム、緊急一時保護事業、短

期入所事業)、シェアハウス、国際交流活動を行なっているNPO法人ぱれっとが主催する福祉バザーに協賛した。

※日 時=平成29年10月15日(日)

※会 場=渋谷区長谷戸小学校体育館

※協賛企業・団体=全49の企業・団体

2) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時=平成29年5月24日(水)

※会 場=よみうりランド聖地公園(東京都稲城市)

④加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」(加盟教団教化部門代表者会議)の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、これまでの教化活動を振り返りながら現代的課題に即した教化を推進していくべく会議を開催した。各宗派からの教化事例発表を受けて、少子高齢化や寺院の檀家離れ等、諸相のなかで現代に即した教化活動の方法について議論を深めた。

第6回

※日 時=平成29年6月9日(金)

※会 場=天台宗務庁

※報 告=天台宗

第7回

※日 時=平成29年11月30日(木)

※会 場=総本山智積院 別院真福寺

※報 告=真言宗智山派

2) 講師派遣

平成29年4月21日(金)	京丹後市久里浜仏教会研修会(京都府)
平成29年5月9日(火)	浄土宗東京教区児童教化連盟講習会(東京都)
平成29年5月17日(水)	真宗大谷派京都教務所講習会(京都府)
平成29年5月18日(木)	臨済宗岐阜青年僧の会研修会(岐阜県)
平成29年5月30日(火)	向島言問幼稚園父母講習会(東京都)
平成29年6月4日(日)	チャイルドライン・オンライン相談研修会(東京都)
平成29年6月15日(木)	曹洞宗中国管区青少年教化指導者研修会(広島県)
平成29年6月22日(木)	曹洞宗北信越管区青少年指導者研修会(富山県)
平成29年7月14日(金)	大正大学布教講習会(東京都)
平成29年7月30日(日)	浄土宗児童教化連盟講習会(北海道)
平成29年8月9日(水)	いのちの電話全国連盟オンライン相談研修会(東京都)
平成29年8月26日(土)	仏教看護ビハーラ学会大会シンポジウム(東京都)
平成29年9月4日(月)	泰明小学校課外授業(東京都)

- 平成29年10月15日(日) 福島チャイルドライン・オンライン相談研修会(福島県)
- 平成29年10月19日(木) 上智大学グリーンケア研究所公開講座(東京都)
- 平成29年10月22日(日) 日本電話相談学会オンライン相談講習会(東京都)
- 平成29年10月25日(水) 横浜チャイルドライン・オンライン相談研修会(神奈川県)
- 平成29年11月7日(火) International Conference on Buddhism & Suicide Prevention(神奈川県)
- 平成29年11月22日(水) Symposium of Buddhist Approaches to Dying and Hospice Care(台湾)
- 平成29年12月9日(土) 埼玉チャイルドライン・オンライン相談研修会(埼玉県)
- 平成29年12月11日(月) インド国立ジャワハルラル・ネルー大学日本学科留学生研修会(東京都)
- 平成29年12月16日(土) 福島チャイルドライン・オンライン相談研修会(福島県)
- 平成30年1月16日(火) 浄土宗ともいき財団電話相談講習会(東京都)
- 平成30年2月19日(月) チャイルドライン富田林オンライン相談研修会(大阪府)

3) 加盟教団・関係諸団体・行政主催式典及び学会・会議等への参加及び協力

- 平成29年4月4日(火) 黄檗宗開山忌法要(京都府)
- 平成29年4月26日(水) 西明寺田中雅博山主告別式(栃木県)
- 平成29年7月13日(木) 第1回文部科学省SNSいじめ自殺対策ワーキンググループ(東京都)
- 平成29年7月18日(火) ダルマチャクラ・チャリタブル・スクール第1回理事会(インド)
- 平成29年7月26日(水) 第2回文部科学省SNSいじめ自殺対策ワーキンググループ(東京都)
- 平成29年7月27日(木) 第34回庭野平和賞授賞式(東京都)
- 平成29年8月1日(火) 第51回曹洞宗青少年書道展表彰式(東京都)
- 平成29年8月3日・4日(木・金) 比叡山宗教者サミット30周年(京都府・滋賀県)
- 平成29年9月4日(月) 全日本仏教青年会理事長就任式典(東京都)
- 平成29年10月7日・8日(土・日) 日本精神衛生学会第33回大会・理事会(東京都)
- 平成29年10月13日・14日(金・土) 全日本仏教会創立50周年記念式典(福島県)
- 平成29年10月21日・22日(土・日) 日本電話相談学会第30回大会(東京都)
- 平成29年11月21日(火) 仏教蓮華基金会年次会議(台湾)
- 平成29年12月2日(土) 第26回日本仏教教育学会学術大会・理事会(群馬県)
- 平成29年12月25日(月) 第3回文部科学省SNSいじめ自殺対策ワーキンググループ(東京都)
- 平成30年1月10日(水) 日蓮宗御用始め(東京都)
- 平成30年1月19日(金) 公益社団法人日本仏教保育協会新年懇親会(東京都)
- 平成30年1月25日(木) 第4回文部科学省SNSいじめ自殺対策ワーキンググループ(東京都)
- 平成30年1月30日(火) 曹洞宗大本山永平寺西堂奈良康明師本葬儀(東京都)
- 平成30年2月5日(月) 東京慈恵会医科大学医療安全講習会(東京都)
- 平成30年2月9日(金) ダルマチャクラ・チャリタブル・スクール第2回理事会(インド)
- 平成30年2月28日(水) 第5回文部科学省SNSいじめ自殺対策ワーキンググループ(東京都)
- 平成30年3月6日(火) 東京慈恵会医科大学感染症講習会(東京都)
- 平成30年3月27日(火) 天台宗妙法院門跡前門主管原信海師本葬儀(京都府)

(4) 教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感得できるよう試みた。

③『子育て明日へのことば』（全青協ブックレット2）の刊行準備

ぴっぴらに毎号連載された子育てにまつわる全青協会員によるリレーエッセイをブックレットとして再編集し、会員をはじめとする青少幼年教化活動の一助とすべく刊行準備を行った。（平成30年5月刊行予定）

2 公益活動推進事業

（1）てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー～」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。今年度も引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により平成29年5月より月1回の頻度で全11回開催した。

※会場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

第1回：平成29年5月11日（木）

○演 題「依存と自立」

○講 師 田中 剛（精神保健福祉士）

第2回：平成29年6月1日（木）

○演 題「本当のしあわせ」

○講 師 柳川 真理子（本願寺布教使・「自死・自殺に向き合う僧侶の会」元代表）

第3回：平成29年7月6日（木）

○演 題「平和を願い 平和に生きる」

○講 師 和田 重良（NPO法人くだけけ会主宰）

第4回：平成29年8月3日（木）

○演 題「築地本願寺探索と茶話会」

○講 師 浄土真宗本願寺派僧侶

第5回：平成29年9月7日（木）

○演 題「若者の声を代弁するPart 2」

○講 師 須永 祐慈（「ストップいじめ！ナビ」副代表理事）

第6回：平成29年10月5日（木）

○演 題「こころに 深く 静かに よりそう」

○講 師 宗崎 知子（栃木県カウンセリングセンター所属カウンセラー）

第7回：平成29年11月2日（木）

○演 題「若者たちの思いと自立支援」

○講 師 金子 由美子（さいたまユースサポートネット・人間と性教育 協議会）

第8回：平成29年12月7日（木）

○演 題「聴くことから始まるコミュニケーションPart 2」

○講 師 神 仁（当会主幹）

第9回：平成30年1月11日（木）

○演 題「どうして生まれてきたの?!」

○講 師 成田 善真（浄土真宗本願寺派善行寺住職・元子ども若者ご縁づくり委員会委員）

第10回：平成30年2月1日（木）

○演 題「「こうりたい」と声をあげること」

○講 師 長井 岳（想像集団440HZ）

第11回：平成30年3月1日（木）

○演 題「お坊さんたちと語る会」

○講 師 臨床仏教師・浄土真宗本願寺派僧侶

②「寺子屋ふぁみりあ」のホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして就労支援活動を行った。

※日 時＝平成29年4月より週1日～2日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指す。

④相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談・インターネット相談窓口において、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。

2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。

3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「仏教子ども家庭支援セ

ンター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力をを行った。

※開設日時＝平成29年4月3日（月）～（毎週月・金曜日午前10時～午後4時）

※会場＝東京都港区・明照会館内

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

（2）「ぴっばら国際児童基金」の運営

（公益社団法人全日本仏教婦人連盟との協働事業）

①奨学金の支給

インドのスラムや路上で暮らす子どもたち、山岳部の遊牧民の子どもたち等、経済的な貧困状況のために教育を受けることが出来ない子どもたちをチャイルド・サポーター（里親）及び会員等からの支援金を基にして奨学金を支給した。

②無料小学校の運営

学用品・教職員の給与等をはじめ、貧困層の子どもたちを対象とした無料小学校の運営に必要な運営費全般について支援を行った。平成29年度はサルナート・ダルマチャクラ・スクールのパソコンルーム・図書室の増設及びパソコン等の備品について支援を行った。

③無料診療所の運営

貧困家庭を対象とした無料診療所を運営し、医薬品の提供および栄養補給等の支援プログラムを推進した。

④貧困家庭の母親を対象とした就労支援

貧困家庭の母親を対象に、職に就くための語学学習、編み物やクラフト製作等の就労支援を行った。

（3）創立55周年記念インドツアーの実施

創立55周年記念事業として釈尊の足跡をたどる旅を企画し、実施した。

※期間：平成30年2月8日（木）～2月15日（木）

※訪問地：デリー、ベナレス、サルナート、ブッダガヤ、ラージギル、ナーランダ、パトナ他

3 臨床仏教研究所運営事業

（1）臨床仏教師養成プログラム

—仏教者は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）》を実施している。

①第3期 臨床仏教師養成プログラム

1) ワークショップ課程開催

座学（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のところに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解し、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、平成29年4月より原則隔週にて全10回の連続講座を開催した。

※会場＝築地本願寺聞法ホール及び講堂

第1講：平成29年4月25日（火）

○演題 「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2講：平成29年5月9日（火）

○演題 「生と死のプロセスワーク・マインドフルネス瞑想」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第3講：平成29年5月23日（火）

○演題 「内観法」

○講師 千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員）

第4講：平成29年6月13日（火）

○演題 ターミナルケア&グリーフケア

○講師 大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）

第5講：平成29年6月27日（火）

○演題 インターフェイス・チャプレンシー

○講師 高木 慶子（上智大学グリーフケア研究所特任所長・臨仏研アドヴァイザー）

第6講：平成29年7月11日（火）

○演題 セルフケア／チームケア

○講師 大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）

第7講：平成29年7月25日（火）

○演題 いのちのケア&スピリチュアルケアー方法論と実践

○講師 窪寺 俊之（聖学院大学大学院客員教授・臨仏研アドヴァイザー）

第8講：平成29年8月8日（火）

○演題 苦集滅道（四諦）ワークショップ

○講師 ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所研究員）

第9講：平成29年8月22日（火）

○演題 コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング①

○講師 吉水 岳彦（臨床仏教研究所研究員）

第10講：平成29年9月12日（火）

○演題 トラウマケア&ロールプレイング②

○講師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員） ※以上、敬称略

※参加者数＝25名

②関西第1期 座学課程（第4期臨床仏教公開講座）開催

現代社会における臨床的テーマを取り上げ、平成29年10月より原則隔週にて花園大学等と協働し京都において全10回の連続公開講座を開催した。（アジア南太平洋友好協会寄附講座）

※会場＝キャンパスプラザ京都・花園大学（京都府京都市）

第1講：平成29年10月10日（火）

開校式・記念シンポジウム

○演題 「いのちのケアを考えるー現代社会と宗教者ー」

○開講挨拶 河野 太通（花園大学総長）

○パネリスト カール・ベッカー（京都大学・花園大学）

窪寺 俊之（聖学院大学）

神 仁（臨床仏教研究所・東京慈恵会医科大学）

○モデレーター 千石 真理（臨床仏教研究所）

第2講：平成29年10月24日（火）

○演題 「死が教えてくれることー臨死体験・死生学からー」

○講師 カール・ベッカー（京都大学・花園大学）

第3講：平成29年11月14日（火）

○演題 「生きる意味の探究ー若者の自死・自殺を防止するー」

○講師 根本 紹徹（いのちに向き合う宗教者の会）

第4講：平成29年11月28日（火）

○演題 「貧困のなかの子どもたちーインド子ども支援ー」

○講師 サンガラントナ・マナケ（パンニャメッタの会）

第5講：平成29年12月12日（火）

○演題 「がん患者のこころの声を聴くー仏教者による傾聴活動ー」

○講師 佐野 泰典（臨床僧の会）

第6講：平成29年12月26日（火）

○演題 「おにぎりで「ご縁」をむすぶー路上生活者に寄り添うー」

○講師 吉水 岳彦（ひとさじの会）

第7講：平成30年1月9日（火）

○演題 「被災者支援から見てきたものー仏教と災害支援ー」

○講師 辻 雅榮（高野山足湯隊）

第8講：平成30年1月23日（火）

○演題 「子どもたちに「育ち直しの場」をー困難を抱える子どもへの援助ー」

○講師 藤 大慶（るんびに学園）

第9講：平成30年2月6日（火）

○演題 「医療者として、仏教者としてー患者と高齢者のこころのケアー」

○講師 林 妙和（日蓮宗ビハーラ・ネットワーク）

第10講：平成30年2月20日（火）

○演題 「現代における臨床仏教師の使命ー生老病死の苦しみに寄り添うー」

○講師 丹治 光浩（花園大学）

神 仁（臨床仏教研究所）

※参加者数＝111名

(2) 臨床仏教師フォローアップ研修の開催

第1回：平成29年9月28日（木）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝千石 真理氏（臨床仏教研究所特任研究員）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第2回：平成30年3月28日（水）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝大河内 大博氏（臨床仏教研究所特任研究員）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

(3) 平成29年度臨床仏教公開研究会の開催

※日時＝平成29年9月27日（水）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※主催＝全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※内容＝臨床仏教師活動発表・指定討論・パネルディスカッション 等

※参加者数＝約40名

(4) 臨床仏教公開シンポジウム「いのちのケアとスピリチュアリティ」の開催

※日時＝平成29年11月4日（土）

※会場＝東京慈恵会医科大学（東京都港区）

※主催＝全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

上智大学グリーンケア研究所

東京慈恵会医科大学付属病院緩和ケア診療部

※内容＝世界各国でマインドフル瞑想を実践しトラウマやグリーフを抱える人びとのケアに当たってきた第一人者をゲストスピーカーとしてお招きし、それぞれのゲストスピーカーの臨床経験を通じて、日本における各分野でのマインドフルネスや個々のスピリチュアリティに根ざした「いのちのケア」のあり方について考えた。

※シンポジスト＝イレーヌ・ユーエン（アメリカ・ナロパ大学）、グスターブ・エリックソン（スウェーデン・ルーテル教会附属病院）、クッピーワター・ボーダナンダ（スリランカ・ドラッグリハビリテーションセンター）、下山直人（東京慈恵会医科大学）、神 仁（臨床仏教研究所）他

※モデレーター＝千石真里（臨床仏教研究所）

※参加者数＝約50名

(5) 臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

平成29年5月8日（月） 普門院診療所（栃木県）

平成29年5月17日（水）花園大学（京都府）

平成29年6月14日（水）福山市民病院（広島県）

平成29年7月10日（月）四国がんセンター（愛媛県）

平成29年7月11日（火）藤原胃腸科クリニック（愛媛県）
 平成29年8月1日（火） 普門院診療所（栃木県）
 平成29年8月28日（月）JVOARD（熊本県）
 平成29年10月18日（水）益子医院（埼玉県）
 平成29年11月21日（火）国立台湾大学附属病院（台湾）
 平成29年11月22日（水）法鼓山大学（台湾）
 平成30年1月23日（火）花園大学（京都府）
 平成30年3月27日（火）花園大学（京都府）
 平成30年3月31日（土）東京医科歯科大学附属病院（東京都）

(6) 講師派遣

教団や団体等の要請に応じて、臨床をテーマとした講座及びワークショップの開催に際して、研究所スタッフを講師として派遣した。

(7) 「いのちのカフェ」の開催

がん患者・ご家族・ご遺族・医療スタッフを対象に、生と死にまつわる苦しみを見つめ分かち合うためのオープンカフェを開催した。

※日 時＝平成29年4月より原則毎週金曜日

※会 場＝東京慈恵会医科大学付属病院本院腫瘍センターサロン（東京都港区）

(8) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

(1) 機関誌『ぴっぱら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	5,700	7-8	9,000	9-10	6,700	11-12	5,600	1-2	6,100	3-4	6,100	6,530部

② 『ぴっぱら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
5-6	赤ちゃんがほしい —— 「妊活」をめぐる葛藤
7-8	いのちに寄り添う音楽 —— 「音楽サナトロジー」の可能性
9-10	子どもたちの今と向き合う —— 弁護士の活動から
11-12	社会的養護を巢立った子どもの貧困と支援 —— 「アフターケア相談所ゆずりは」の活動を通じて

1-2	SNSでつながりたい ― 子どもを「ネットの闇」からどう守るか
3-4	長期化する「ひきこもり」 ― 「8050問題」への処方箋とは

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

①「第41回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

(本 賞)

○教覚寺少年会

〔代表・南荘 宏 氏／浄土真宗本願寺派教覚寺住職／静岡県静岡市〕

○認定NPO法人 れんげ国際ボランティア会

〔代表・川原 英照 氏／真言律宗蓮華院誕生寺貫主／熊本県玉名市〕

(青年奨励賞)

該当者なし

※後 援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成29年6月1日（木）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

②「第42回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成29年9月公募開始、同年12月15日締め切り

※選考会日時＝平成30年3月15日（木）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者

(本 賞)

○田端 義宏

〔日蓮宗永昌寺住職／青森県西津軽郡〕

○小原 智司

〔曹洞宗西光寺住職／愛知県豊橋市〕

(奨励賞)

○東海林 良昌

〔浄土宗雲上寺副住職／宮城県塩竈市〕

※後 援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成30年5月31日(木)

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館(東京グランドホテル)

(2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第51回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第66回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成29年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業(公益目的事業3)

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

仙台災害支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

① 孤独死・自死を防止するためのこころのケアを行う人員の派遣

こころのケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に復興支援住宅等において茶話会等を開催した。

② 巡回子ども会の実施

被災地の応急仮設住宅、幼稚園・保育園、学童保育を定期的に訪問し、子ども会を実施することによって被災した子どもたちの継続的なこころのケアに努めた。

③ 「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあって就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局として運営を行った。今年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に378名に月々1万円の奨学金を給付し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努めた。

(2) 国内外緊急支援事業

平成26年に発生した広島土砂災害及び平成28年4月に発生した熊本大地震における被災者支援として、被災児童のトラウマケアを中心としたこころのケアを中心に支援活動を引き続き行った。

IV 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は平成30年3月末日現在、797名。内訳は「会員」307名、「活動会員」253名、「賛助会員」212名、「特別賛助会員」25名。

平成29年度事業報告付属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年3月

公益財団法人 全国青少年教化協議会